

## 漢字文化の継承と発展を議論 京でフォーラム

漢字文化の継承と発展を目指すフォーラム「漢字文化の今」が10日、京都市中京区の京都新聞文化ホールで開かれた。言語や歴史の専門家が3000年以上使われてきた漢字の奥深さをひもといた。

京都大学21世紀COE「東アジア世界の人文情報学研究教育拠点」と京都新聞社が主催した。今回は最終の5回目で、約150人が来場した。

京都大人文科学研究所の研究者5人が漢字をキーワードに講演。役人に漢字試験を課して確実な文書行政で支配した漢代の統治方法、漢字の特徴を利用して巧みに権力を批判した文化大革命時の言葉遊びなど、漢字能力なしには理解できない中国文化が紹介された。

高田時雄教授は「日本には仮名という便利な表音文字がある。漢字とのバランスを欠くと、文化の継承が不利になる」と、漢字能力の衰えに警鐘を鳴らした。



漢字文化継承の課題を議論する研究者ら（京都市中京区・京都新聞文化ホール）